

高玉芝居定期公演

2月11日、さくらの里文化伝承館で、町無形文化財である「高玉芝居」の定期公演が行われました。約230人の

お客さまが見守るなか、最初に7人の舞踊が行われ、扇子や傘などを使い、優雅に力強く踊りが披露されました。

そして、今回の芝居の演目は「渡守親恋時雨」。熟練の技と迫真の演技、そして時折アドリブなども織り交ぜられた芝居はまさに無形文化財。会場内は、目の肥えた芝居ファンからも拍手や喝采、笑いで溢れていました。

今回の定期公演は7回目となり、蚕桑地区公民館の運営委員のかたがたが裏方として



芝居の一場面

協力し、さらに地元のもちやそば、漬物などの販売も行われていました。

鈴木座長が退任



(左) 児玉敏 新座長

芝居の幕間、鈴木座長が登場すると、「今回で座長を降りる」という報告がされました。鈴木座長は、13年間という長い期間その座を務められ、高玉芝居の発展にご尽力されました。退任のあいさつの後は詰めかけたお客さまからねぎらいの拍手、そして、これから新座長となる児玉さんに激励の拍手が送られました。高玉芝居のさらなる活躍をご期待いたします。
鈴木座長、長い間お疲れさまでした。

由佳のヒスパニック日記

vol.1



エジプトに赴任し、約一年が経ちました。こちらでの生活を少し紹介したいと思いません。

電車で遠出した時の話です。私の後ろの席に、男の子とそのおばあさんが座っていました。電車が出発し約30分、その男の子が飽きてしまい、電車の通路を歩いたり、ぐずってきてしまいました。そして

ら、男の人ばかりだったのですが、周りのみんながあやし始めました。私も紙飛行機を作ったりと、みんなで遊びながら、あやしなから帰ってきました。約12時間の旅だったのですが、同じ時間を共有し、とても楽しい時間でした。こちらでは、知っている人知らない人に限らず、子どもにはキスをし、愛情を強く注ぎます。怒ることにもそうです。日本であれば、小さい子であれば周りを気にして車で移動したり、電車に乗らないように気を配ったりという行

平成22年1月から、海外青年協力隊員として活動されている芳賀由佳さん(荒砥出身)。任地での様子を、芳賀さんの執筆によりご紹介します。(全4回予定)

動を先に考えるかと思っています。おばあさんも気を遣っていました。しかし、それ以上に周りの人の他人への愛情や優しさの深さを感じ、マナーや決まりごとではなく、いろいろなものがあることを日々感じます。

また、街中では大人のケンカが多く見られますが、多くの人が仲介に入ります。当人たちは自分の主張をし、仲介の人は話を聞いたり、なだめます。怒りがおさまらなく、手が出るような場合は、仲介の人がなだめようと抱きしめたり、キスをしたりという場面が多く見られます。奥ゆかしさを美德とする日本とはまた違いますが、話すことを大切にしている文化、ストレートな感情表現は、エジプトの良さ、エジプト人の強さだと思

います。私も相手を理解したり、理解してもらったりすることが、解決策が生まれる第一歩だと考え、立場が上の人に対してもなるべく自分の気持ち

は全て言うようにしています。

初めは、道が分かっているのに、心配だからと私について来てくれたりするエジプト人に対し、お節介と思ってしまう事もありましたが、人に対して興味を示す、人との時間を大切にしているエジプト人の優しさがあったからこそ、さみしさを感じずにこうやって充実した日々を過ごせていると思います。以前よりも、現地の人と接する機会が増え、知り合いも増えました。活動で考えさせられることは大変多いですが、活動に限らず、このような日常の中でのひとコマひとコマに隠れたエジプトの良さや文化の違いなどを大切にしながら生活していきたいです。

芳賀由佳

※芳賀さんは、反政府デモの影響により、現在は日本に一時期帰国されています。(3月7日現在)

写真提供：芳賀由佳さん